



ベトナム ホーチミン視察レポート

「優秀なIT人材の確保、経験豊かなオフショア開発を巡る」

ベトナム最大の経済都市ホーチミンIT視察

JASA国際委員会委員／
株式会社金沢エンジニアリングシステムズ
中西 尚子



JASA国際委員会でベトナムホーチミンを視察訪問しました。オフショア開発・人材活用のビジネスパートナーとして成長を続けるベトナムの特徴や将来性を学び、海外展開の推進や海外ビジネスプランを立てることを目的に、総勢20名での視察訪問となりました。

ベトナムの概要



JETRO ホーチミン事務所

JETRO ホーチミン事業所より「ベトナムの最新ビジネス環境と今後の展望」について説明して頂きました。海外からベトナムへの投資は年々増加しており、日本のベトナムへの投資件数順位は2位(2018年)です。最も投資件数が多いのは韓国で、日本の約2倍の件数となっています。街中には韓国系の飲食店が多く、スーパーマーケットには韓国食品の売り場があることから韓国企業の多さがうかがえます。昨今では中国からの投資が増加傾向にあります。「豊富で勤勉で若くて安価な労働力」、「将来期待できる9,000万人超の消費市場」、「安定した政治」がビジネス市場としてのベトナムの魅力となっています。

ベトナムはASEAN地域ではタイに続く経済規模で、10年後には現在のタイに並ぶ経済規模になる成長スピードです。経済成長に

伴い賃金も上昇の一途で、大卒の場合、月給300ドル～400ドルが目安で、ITエンジニアでは更に高い給与水準となっています。

一方、南部(ホーチミンを中心とした経済都市)と比較して、中部・北部(ハノイ以外)は貧しい地域が多く、南北の経済格差は大きいです。今後はインフラ整備などに伴い、中部・北部への外資が増加することが見込まれています。

企業訪問

現地ソフトウェア協会、現地企業、日系企業の5社を訪問し、状況を見聞しました。上流工程(要件開発など)から受託できる体制の構築や、日本語教育(日本での研修や業務、資格取得の報奨金など)については、どの企業も重点的に取り組んでいました。また、ベトナム人は社内イベントを大事にする国民性で、両親の日のような日本では馴染みないイベントも豊富です。

●ベトナムソフトウェア協会(VINASA) - FUJINET SYSTEM JSC内 -

ベトナムソフトウェア協会(VINASA)と日越IT協力クラブ(VJC)は、日本企業とベトナム企業の架け橋としての活動を行っています。展示会を開催するなど、ベトナム版JASAのような組織です。

FUJINET SYSTEMS JSCは両団体に加盟しており、団体の中心的な役割を担っています。開発室を見学させて頂き、各自パーティションで仕切られたスペースで開発する風景は日本と似ていました。

●FPT Software Company

ベトナムを代表する巨大企業です。FPTグループでは、ITサービスの他に、テレコムサービス、IT製品生産・流通・小売、教育分野と多岐に渡るビジネスを展開しています。日本には、FPTジャパンホールディング(株)があります。

●ISB VIETNAM CO.,LTD

(株)アイ・エス・ビーのグループ会社です。これまでは日本からの受託開発が主でしたが、昨今では現地企業からの仕事も増えて

▼FUJINET SYSTEM JSC



▼FPT Software Company



▲ISB VITENAM CO.,LTD



▲SH CONSULTING VITETNAM COMPANY LTD.



◀ 研修室 (工科大学)

通路の学習スペース (工科大学) ▶



講義室からの
風景 (FPT大学) ▶



▶ 正面階段
(FPT大学)

きています。人材難により中途採用が非常に厳しいため、新卒を採用し、就業しながら日本語学校に通わせるなど、人材育成に力を入れていました。

● SH CONSULTING VIETNAM COMPANY LTD.

SHコンサルティング(株)のホーチミン事業所です。組込みシステム向けソフトウェアの開発、制御基板の開発、無線通信キットの開発、FPGAの論理設計を行っています。日本からの受託開発が主ですが、ベトナム地場の組込み製品が少ない中、組込みに特化した開発形態が特徴的でした。

● Pascalia Asia Vietnam

日本向けのサービスの開発から始まったベンチャー企業です。受託開発に加え、R&Dやベトナム向けサービスの開発も行っています。外国人が多く住むエリアのコテージがオフィスになっており、南国ムード漂う開放的な雰囲気でした。

大学訪問

ホーチミンを代表する2大学を訪問しました。就職後は即戦力になるためのカリキュラムがあり、全員必須のインターンシップ制度も充実していました。

● ホーチミン工科大学

理工系トップクラスの国家大学です。ホーチミン中心部の旧キャンパスを訪問しました。学部生は郊外の新キャンパスに移動済みで、一部の研究室だけが旧キャンパスに残っており、旧キャンパスは休暇中の大学のような雰囲気でした。大学卒業後は就職を希望する学生が多く、大学院への進学率は低いです(10%未満)。日本企業との共同開発の実績があります。

● FPT大学

ホーチミン市郊外の新設のキャンパスを訪問しました。私立大学で授業料が高額のため、裕福な家庭の学生が多いです。森を連想させるような南国のマンションのようなキャンパスでした。在学中の海外経験が必須でグローバル人材の育成に力を入れてい

るところが特徴的です。FPTグループの大学のため、卒業後はFPT関連会社に就職する学生が多いです。

今回の視察の感想

実際に現地を視察することで、オフショアの実情と、人材活用を肌で感じることができました。ホーチミン市内はバイクで溢れ、過密状態のため、企業、大学共に郊外に進出する傾向にあるようです。

ベトナム料理は米、パン、麺と主食が豊富で、味付けが控えめのため日本人の口によく合います。また、ホーチミン市民は親日的で温かな性格のため、日本人にとっては馴染みやすい環境だと感じました。

参加者からのフィードバックと今後の課題

今回の視察ツアー参加者アンケートでは、訪問先や委員の対応、宿泊先や食事など、12項目のアンケートに対し、ほぼ満足以上を頂きました。現地の渋滞等の交通事情により、一部過密スケジュールになってしまい、タイムスケジュールのバランスが課題となりました。今回を含めて4回、東南アジアを中心に視察しましたが、東南アジア以外の地域の視察を希望する回答を多く頂きました。

台風に見舞われ、帰国便が2日遅延するトラブルがありましたが、全員無事に帰国することができました。関係者の方々のご尽力ありがとうございました。



▲ Pascalia Asia Vietnam ▼

